

【第12回歴史都市防災シンポジウム】

開催日時：2018年7月14日（土）10：30～18：00

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館

参加者：110名

講演者：京都大学防災研究所 教授 矢守 克也

概要：

立命館大学衣笠キャンパスにて、第12回歴史都市防災シンポジウムを開催しました。歴史都市や文化遺産の防災に関する36件の研究発表と活発な討議がおこなわれ、全国から約110名の参加がありました。

セッションは、防災技術（1）～（3）、歴史・地理、観光客、火災・防火、防災計画（1）～（3）のあわせて9セッションで、さまざまな研究発表と活発な討議が行われました。

特別講演企画では、京都大学防災研究所の矢守克也教授より「黒潮町の言葉を通して防災とまちづくりについて考える」と題して、2011年3月に発生した東日本大震災を受けて、全国で最大の津波高が想定された高知県黒潮町での防災対策の根底にある考え方や思想を、特に黒潮町発の言葉を紹介しながら、防災・減災、復興・まちづくりについてご講演いただきました。

なお、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol.12」として刊行しております。



会場の様子



特別講演の様子

【立命館大学 ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修2018】

開催日時：2018年8月29日（水）～9月19日（水）

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所 他

参加者：15名

概要：

2018年8月29日（水）から9月19日（水）の22日間、立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修（UNESCO Chair Programme on Cultural Heritage and Risk Management, International Training Course (ITC) on Disaster Risk Management of Cultural Heritage 2018, 13th year, Ritsumeikan University）を実施いたしました。第13回目の本年度は、世界各国より261名からの応募者の中から、ブラジル、ブータン、ジンバブエ、エチオピア、メキシコ、ネパール、ジョージア、インド、パキスタン、イラン、ベルギー、ルーマニア、イタリアの計15名を選出し、招聘しました。また、韓国、フィジー、インドネシアから3名のオブザーバーが参加しました。研修では、世界各国から文化遺産防災、保護に関する専門家を招き、日本の文化遺産と危機管理に関する取り組みのみならず、世界各国特有の文化遺産保全と防災の現状と今後の課題についても理解を深めました。

また、昨年度に引き続き、数多くの国内の専門家にご協力いただき、動産・不動産文化財の災害からの保護に関してご教示をいただきながら、総合的な防災手法やアプローチを考察しました。具体的には、当研究所内での講義、京都市内の社寺、景観指定地区の見学、京都国立博物館や先斗町での実習を通じて、日本の文化遺産防災計画、自然災害への対処、文化財の保全修復等を学び、さらには、兵庫県佐用町平福地区や朝来市竹田地区の水害や土砂災害からの復興プロセスや神戸北野地区の視察を通じて阪神淡路大震災からの長期的な復興を学びました。

研修後に行われた独立行政法人国立文化財機構主催の国際シンポジウム「地域と共に取り組む文化遺産防災－世界の経験、日本の未来－」では、国内外から約65名が出席し、グローバルな視野から、過去の災害から得られた教訓を元に、日本そして世界の今後の防災研究のあり方について考察する大変有意義な場となりました。また、一部の研修者も研修の成果を発表し、研修後、自国での文化遺産防災への取り組みをより強固なものにすべく、今後の活躍が期待できる発表内容となりました。

立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修は、これまで実施した研修実績をもとに、立命館大学内外の研究者、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）、ICCROM（文化遺産国際協力センター）、ICOMOS/ICORP（国際記念物遺跡会議防災国際学術委員会）、ICOM（国際博物館会議防災危機管理委員会）の国際機関、文化庁をはじめとする行政、そして現場の専門家など多彩な講師陣、また、世界各国からの研修者の積極的な参加により高い評価を得ています。本国際研修では、今後も、当研究所の研究成果に基づいた国際社会に向けた成果発信や貢献活動を継続してまいります。



災害危険性評価の方法を学ぶ現地実習
(先斗町)



緊急時の対応を想定するワークショップと討論
(先斗町)



文化財防災実務者の招聘講義
(当研究所)



文化財消防設備の見学
(仁和寺)



強風体験
(京都市民防災センター)



世界遺産清水寺の持続可能な保全システム
(講義、見学)



保存地区における環境防災水利の
整備状況の視察 (産寧坂地区)



2009年台風被害から復興した地区の視察
(佐用町平福)



持続可能な保全整備に取り組んでいる
竹田城の見学



最終プレゼンテーションと討論



送迎会と修了書授与



国立文化財機構共催の国際シンポジウム
(集合写真)

【講師一覧】

■国外招聘講師

Joseph Allan KING	Director of the Sites Unit, ICCROM
Giovanni BOCCARDI	Chief, Emergency Preparedness and Response Unit, Culture Sector, UNESCO
Aparna TANDON	Project Manager, Collections Unit, ICCROM
Corine WEGENER	Director, Smithsonian Cultural Rescue Initiative, Office of the Provost/Under Secretary for Museums and Research, Smithsonian Institution
Elke SELTER	Researcher (PhD) at SOAS, University of London
Rohit Kumar RANJITKAR	Nepal Director, Kathmandu Valley Preservation Trust (KVPT)
Rashmin GUNASEKERA	Senior disaster risk management specialist, GSURR, World Bank
Lee BOSHER	Reader in Disaster Risk Management, School of Architecture, Building and Civil Engineering, Loughborough University
Wesley Webb CHEEK	Urban Studies Pre-Doctoral Fellow, City, Culture and Community, Tulane University
Ming Chee ANG	General Manager, George Town World Heritage Incorporated
Dulce Maria GRIMALDI SIERRA	Senior conservator for conservation and research of decorative elements at archaeological sites, Coordinación Nacional de Conservación del Patrimonio Cultural (CNCPC)

■国内招聘講師

梅津 章子	文化庁文化財部参事官(建造物担当)整備活用部門・文化財調査官
佐藤 大介	東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野・准教授
降幡 順子	京都国立博物館・保存科学室長
高妻 洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター長
久保田 裕道	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所・文化財調査官
小宮 睦	京都府教育庁指導部文化財保護課・建造物担当副課長
目片 貴美子	京都市消防局予防部予防課・文化財係長
澤井 健二	摂南大学・名誉教授
平岡 善浩	公立大学法人宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科・教授
大森 彦一	大森設計事務所・代表
神戸 啓	先斗町まちづくり協議会副会長・事務局長
西村 良子	先斗町まちづくり協議会事務局・まちづくりアドバイザー
藤木 透	佐用町教育委員会 教育課企画総務室・副室長
池野 祐季	朝来市教育委員会 事務局文化財課・主任

■学内講師

土岐 憲三	衣笠総合研究機構・特別研究フェロー
Rohit JIGYASU	衣笠総合研究機構・教授
板谷 直子	奈良女子大学・非常勤講師
大窪 健之	理工学部 環境都市工学科・教授
深川 良一	理工学部 環境都市工学科・教授
吉富 信太	理工学部 建築都市デザイン学科・教授
藤本 将光	理工学部 環境都市工学科・准教授
里深 好文	理工学部 環境都市工学科・教授
花岡 和聖	文学部 地域研究学域・准教授
金 度源	衣笠総合研究機構・准教授
石田 優子	総合科学技術研究機構・専門研究員

■見学ワークショップ等補助若手研究者

谷端 郷	衣笠総合研究機構・専門研究員
酒井 宏平	OIC 総合研究機構・専門研究員

【第12回 みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト】

表彰式：2018年10月28日（日）

開催場所：立命館大学 歴史都市防災研究所 カンファレンスホール

応募作品：57作品 73名

協 賛：セコム株式会社、株式会社パスコ、日本ミクニヤ株式会社、Fレントリース株式会社、株式会社帝国書院、第一通商株式会社、マツモラ産業株式会社、株式会社宝水、株式会社ネスト・ジャパン、NPO法人災害ボランティアステーション日本、株式会社柴橋商会（順不同）

後 援：国土地理院、コクヨマーケティング株式会社、京都新聞、KBS京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、人文地理学会、立命館地理学会、京都府警察（順不同）

概 要：

立命館大学 歴史都市防災研究所では、大学による社会貢献の一環として、2007年度より小学生とその保護者を対象に「地域の安全安心マップコンテスト」を実施している。地図の作成を通じて地域の安全安心を考える取り組みを評価し、促進するために毎年開催しているイベントであり、今年度はその第12回目の開催であった。本事業は、身のまわりに存在する地震や津波といった自然災害や、自動車や自転車との交通事故、不審者による犯罪の不安など、安全安心を脅かす要素について、小学生が自らの体験を通じて理解するばかりでなく、地図によって周囲とその情報を共有することができる取り組みである。

今回はテーマや表現に様々な工夫が施された57作品の応募があった。表彰式において審査委員から各入賞作品に対する講評が行われ、作品の意図や伝えたいテーマの意義が明確となり、参加者の関心を引きつけた。今年度は、当研究所の若手研究者が中心となり、立命館大学国際平和ミュージアムとの共催事業で近隣の小学生を対象とした「クイズで学ぶ防災」を実施したほか、要望のあった小学校に出向いてマップづくり講習会（9月3日東広島市立高美が丘小学校）も実施し、子供の身の回りの安全に対する意識の醸成につながる活動にも力を注いだ。当該事業を研究所活動の柱の一つとして、引き続き実施する予定である。



表彰式の様子

【歴史都市防災研究所定例研究会】

歴史都市防災研究所では、研究メンバーがそれぞれの研究成果について報告をする場として、研究会を定例開催している。発表者および参加者は、当研究所所属の教員、専門研究員等の若手研究者、学生、および客員研究員として当研究所の活動に参画いただいている学外の関係者である。各研究部会・プログラムで進めている研究プロジェクトについて、多岐にわたる専門分野の研究者が活発に意見交換を行う機会として、来年度以降も継続予定である。今年度開催した各回の内容については、以下のとおりである。

2017年度

【第7回定例研究会】

開催日：2018年3月5日（月） 14：40～17：00

開催場所：立命館大学朱雀キャンパス 1階 多目的室 I

発表者および報告内容：

運営委員会からの報告

大窪 健之（歴史都市防災研究所 所長）

各部会からの報告

A 部会 歴史文化都市の時空間データ基盤研究部会

B 部会 歴史文化都市の防災技術研究部会

C 部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

評価委員からの内部評価

2018年度ユネスコ・チェア国際研修開催に向けた進捗報告

2018年度

【第1回定例研究会】

開催日：2018年4月14日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

武田 史朗（理工学部 教授）

『防災と都市デザイン～「空間の質」の観点から～』

砂田 陸（理工学研究科 博士課程前期課程2回生）

『歴史的街区の伝統的な構成要素による延焼抑止効果に関する研究～高山市三町・下二之町大新町重伝建地区の土蔵群に着目して～』

小野 聡（政策科学部 助教）

『豪雪による問題の構造化と適応策の検討～滋賀県高島市における事例調査～』

【第2回定例研究会】

開催日：2018年5月26日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

谷端 郷（衣笠総合研究機構 専門研究員）

『津波の教訓を伝える地名の行方―「岩手沿岸古地名考」の追跡調査―』

福山 智子（理工学部 准教授）

『東日本大震災における津波による住宅の塩害被害に関する調査』

林 倫子（関西大学 環境都市工学部 准教授）

『「治水」とソフト対策の両立を目指した2017年度の社会活動+研究成果について』

【第3回定例研究会】

開催日：2018年6月23日（土） 10：00～12：00

開催場所：立命館大学 朱雀キャンパス1階多目的室1

発表者および報告内容：

小川 圭一（理工学部 教授）

『歴史都市の道路ネットワークと交通工学・交通計画の研究課題』

藤本 将光（理工学部 准教授）

『京都府綾部市安国寺裏山斜面における斜面動態モニタリング』

酒井 宏平（OIC 総合研究機構 専門研究員）

『エージェントシミュレーションを用いた参加型避難計画策定手法に関する研究』

【第4回定例研究会】

開催日：2018年10月13日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

宗本 晋作（理工学部 教授）

『歴史文化都市の時空間データ基盤研究進捗報告』

伊原 大貴（理工学研究科 博士課程前期課程1回生）

『豪雨斜面崩壊予知における超音波の応用』

山本 直彦（奈良女子大学 生活環境学部 准教授）

『ネパールの都市型住居の特性を踏まえた事前復興のための類型化』

【第5回定例研究会】

開催日：2018年11月24日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

初田 慎弥（理工学研究科 博士課程前期課程2回生）

『深層学習による害獣自動認識と監視カメラ向け実装の試行』

田中 克彦（総合科学技術研究機構 上席研究員）

『基礎免震レトロフィット工事に仮受時の沈下性状に関する研究－仮受け杭を用いる有効性について－』

酒井 宏平（OIC 総合研究機構 専門研究員）

『イタリア中部地震を事例としたイタリアの復興プロセスに関する研究』

金 度源（衣笠総合研究機構 准教授）

立命館大学 ユネスコ・チェア『文化遺産と危機管理』国際研修開催報告

【第6回定例研究会】

開催日：2019年1月19日（土） 10：00～12：00

開催場所：キャンパスプラザ京都5階 第2・3・4演習室

発表者および報告内容：

矢野 桂司（文学部 教授）

『古地図と古写真のGISによるWeb配信』

鈴木 祥之（衣笠総合研究機構 教授）

佐藤 英佑（株式会社佐藤木材 取締役）

『旧加悦町役場庁舎耐震改修調査研究』

青柳 憲昌（理工学部 准教授）

『法隆寺昭和大修理による金堂壁画防災対策と収蔵庫建築』

【第7回定例研究会】（予定）

開催日：2019年3月2日（土） 13：30～16：30

開催場所：キャンパスプラザ京都2階 第1会議室

発表者および報告内容：

各研究部会 2018年度活動報告・2019年度活動計画（予定）

内部評価/その他委員会からの報告